

だれでも わかる・できるシリーズ

小学算数・単元別

Small Step 問題集

Q & A 集

SS問題集を使った効果

1. 成績中位者を満足させられるので小学生の生徒を増やせる
2. わかりやすく、定着が確実なので成績があがる
3. 質問が少ないから1人の教師が5～10人指導できる
4. 体験学習1回で子どもが気に入る
5. 退塾者が少ない

小学算数・単元別 Small Step問題集 Q & A

宮田塾 教材開発室
埼玉県吉川市保528-1-103
048-981-6004 FAX048-983-0629

【指導のねらい】

どんな学力の子でも小学校で習う算数の基礎を確実に理解・納得させて学校の成績を上げ、将来の中学・高校で役に立つようにすることを狙いとして指導しています。

また、このQ & Aは、いままでにこの教材をどのように使ったらよいかとの質問を受けることがありました。この解決方法を書いたものです。お役に立てば幸いです。

ここに書いてある方法は、宮田塾の指導で実際に行っている方法です。指導は、教師2人、生徒10人～15人、小学無学年クラス、1ヶ月先の先取り授業をする場合のQ & Aです。

当座の目標は、「1日の授業で子どもに満足を与える」、「各単元を確実に身につける」、「学校テストで90点～100点を取らせる」です。

【教材の構成】

1. 導入(新しい単元と関係のある今までに習った部分の復習)
2. 新しい単元の学習(超スモールステップ方式で簡単な説明があり、反復演習問題が多い)
3. [まとめの問題]最後にあり、定着の確認と、学校テストで高得点をとらせるために90～100点が取れるまで何回も同じものを繰り返し学習させる)

【この教材を作った背景】

宮田塾では十何年前に、チラシを撒いても中1が1人か2人しか入塾しない。小学生の一斉授業の生徒の減少があり、小学生の生徒数を増やして中学の継続で中学生の生徒を確保しようと何年も考えていた時期がありました。そこで、エジソンクラブの練習帳との出会いで小学無学年クラスを設置しました。生徒数も徐々に増えてきましたが、無学年クラスにすると学力が中位の子も増え、また、学校テストを上げて欲しいという要望も多く聞かれるようになりました。そこで、市販の教材や塾用の教材など様々な教材を検討し使ってもみましたが、すべての生徒が満足するような教材がありませんでした。そのころから、生徒が定着しにくい部分のプリントを少しずつ作り、使わせては改定するという作業を続けました。これらのプリントは子どもたちに評判がよいものでした。それから、これらのプリントを単元別にまとめたものがSS問題集です。

したがって、この問題集は販売を目的にして作ったものではありません。子どものつまずきを解消するにはどうしたらよいかを考えて、効果のあったものからできています。もちろん、今でも宮田塾で使っている教材です。

現在でも、このような教材はありません。指導がうまくできない生徒さんがいらしたら是非1度お試し下さい。子どもの目の色が変わり黙々と勉強するようになることでしょう。このような結果は使っていただいている塾から多くいただいている声です。

Q1. どのように使えばよいのですか？

A1. 1ヶ月の先取り授業が中心です。(できない子ほど先取りさせます)

この教材はつまずきが大きい子でも先取り学習ができます。復習から導入し、新単元も超スモールステップ方式になっているから先取り学習ができます。先取り学習は、1単元の学習が終わった後でその単元の定着のための【まとめの問題】を何回もやらせる時間が取れるので、定着が確実になり学校テストでも高得点が取れます。

A2. 説明は30秒から1, 2分の短時間で行う。しかも、子どもが納得し同じ質問をしないように説明する。

個別対応のクラスでは短時間で説明するのが命。例えば、1人の教師が5人の生徒を30分指導する場合、1つの説明に1分かかると30分で30問しか説明できない。1人あたりでは6問しか説明できません。1つの説明が30秒で終われば1人あたり12問の説明ができるわけです。したがって1人の教師が多くの生徒を指導するには1問あたりの説明時間をできるだけ少なくしなければなりません。ですから、質問が多く出る問題集では1人の教師が指導できる人数はおのずと限定されてしまうわけです。SS問題集は他の問題集と比べて質問が圧倒的に少なくなるように作ってあります。

A3. 1日の授業のすすめ方(1日SS問題集5～10ページ)

新単元の教材を配布し何の説明もしないで自分で読んで問題を解かせる。

教師は生徒の質問に対して30秒から1, 2分で説明する。また、自分から質問できない子もいるので絶えず子どもを観察し、手が止まっている子がいたらその子どものところに行き説明をする。

1日の学習が終わったら宿題を出す。

A4. 1単元の授業のすすめ方(学校の進度より1ヶ月先に終わらせる)

1日の授業を続けて1単元が終わったら最後の【まとめの問題】を質問なしでやらせる。

その場で採点し間違いはその場で説明する。そのあとで第2回の【まとめの問題】をやらせる。

採点し、点数が上っていなければ教師の説明がわるいためと反省する。点数が上れば生徒が理解できたと考えられる。1冊が終わったら提出させる。教師が採点し、次回から見直しをさせる。

A5. 2単元の授業のすすめ方(学校の進度より1ヶ月先に終わらせる)

1単元目の見直しを10ページ位やらせる。次に1単元目の【まとめの問題】を、CDからプリントして1単元目の最後と同様にやらせる。これと同時に2単元目の勉強に入る。これらを並行させてやらせる。【まとめの問題】は90点～100点が取れるまで毎回同じものをCDからプリントしてやらせる。

A6. 1年間のスケジュール(学校の進度より1ヶ月先に終わらせる)

3月...新学年の1単元目の学習を完了

6月...学校の1学期の学習を完了

7月, 8月...1学期のまとめと2学期の2単元分を先取り学習

9月...2学期の1単元目の【まとめの問題】と2学期の3単元目の先取り学習

11月...学校の2学期の学習完了

12月...1年間のまとめと3学期の1単元目の先取り学習

2月...1学年の学習をすべて完了

Q2. 塾に来て一生懸命勉強しない、集中できない、おしゃべりが多い、ぼ - っとしている子にはどう対応すればいいですか？

A1. わからないから勉強に集中できない子が多くいます。

その子どもについている時間を多めにとり、説明をし次、次と問題を解かせていく。このようにして解るようになれば集中して勉強をするようになる子が多くいます。

A2. 難しい内容のペ - ジ数が多いのでやる気がなくなるケ - スもあります。

この場合は学習する予定のペ - ジ数を減らしてあと2ペ - ジに終わりにしようなどといってあげて少なめな目標を決めてやらせる。これもあと2ペ - ジだと頑張れることも多くあります。

A3. 友だちどうしでおしゃべりが多い場合は席を離す。おしゃべりを止めたら元の席に戻ってもいいよ。と伝えておく。

A4. 時には厳しくしかることも必要。子どもたちのことを思っているんだということが解ってくれば子どもにも気持ちは伝わる。

A5. 教師はやさしさと厳しさの両面を持ち合わせる必要がある。男性教師と女性教師を1人ずつ担当させるのも1つの方法。

A6. 1問、2問できたら「できるようになったね」、「これは難しいんだけどよくできたね」、「今日はたくさんやったね」などとたくさんほめる。

A7. 運動会の練習などで疲れているときは、通常より勉強量を減らすことも必要。

A8. 通常のテストの成績が悪い子は、SS問題集の勉強量を増やし次のテストの成績を大幅にアップさせて「やればできるようになる」ということを実感させる。

A9. 同じものを長い時間させずに目先を変えることを試みる。マス計算の次はSS問題集、次は文章題などと変えていく。

A10. 授業のはじめはマス計算などで脳を活性化させるのも効果が大きい。

A1. 宮田塾では雨が降った日には飴を1こあげ、2ヶ月に1度100円程度のプレゼントをあげています。この日には、おしゃべりをしないで一生懸命に勉強した子にだけあげるよという、静かに勉強する子が多い。効果が大きい。

Q3. 学習進度はどのようにすればよいでしょうか？

A1. 先取り学習が基本

成績が悪い子ほど先取り学習は絶対に必要。学校のテストまでにゆとりを持って取り組めるから。1度良い成績を取ると自信を持てるようになり自ら進んで学習するようになる。

成績が良い子も先取り学習が基本。時間にゆとりがある場合は発展的な内容にも取り組ませる。また、学年を超えた先取りも子どものやる気を出させるには良い。

しかし、基礎基本の確実な理解をともなっていないければ無茶な先取りは効果が半減。

A2. 苦手な単元は先取りをしながら並行して行う

できないからといって苦手な単元ばかりやっていると成績アップはいつまでたってもできない。

先取りの中の学習を通して苦手単元が復習できる場合はそれを活用する。たとえば、小6のかけ算をやりながら約分を指導するなど新しい単元で苦手単元が復習できる場合があります。

Q4. 途中入塾者にはどう対応すればよいですか？

A1. 学校で現在習っている教材(単元)から学習を始める

塾は一般的に学校よりも先取り学習が多いと思いますが、一斉授業では塾の進度に合わせるための補習が必要なことが多いと思います。集団の中の個別対応方式の授業ではこれが必要ありません。また、SS問題集では復習から新単元への導入をし新単元も超スモールステップ方式になっておりますのでどんなに算数が苦手な子でも現在習っている単元から学習できます。今学校で習っている単元から勉強を始める理由は、入塾後1回目の学校テストで高得点をとらせるためです。

A2. 学校よりも1ヶ月先の先取り授業ができるまでSS問題集の学習時間を多めに取る。

途中入塾者ははじめは学校と同じ進度から始めますので、ゆとりを持って先の単元の学習をさせるためにSS問題集の学習時間を多めに取り、早めに学校の進度よりも1ヶ月先になるようにします。

Q5. 「直し」を面倒がる子が多いのですが、これを徹底させるにはどうしたらよいですか？

A1. 1日に直しのペ - ジを10ペ - ジなどにして、1冊全部を直させない